

第1学年 英語科学習指導案

1 単元名 PROGRAM 7 The Wonderful Ocean（SUNSHINE ENGLISH COURSE 1）

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、ユキとマイクが北海道でシャチウォッチングに参加し、ガイドの笹森さんの説明を通して海洋生物の生態を知り、海洋環境の貴重さを学ぶ設定になっている。この単元を通して、生徒たちは、動物の生態やそれらが暮らす海への関心をもつことができると思われる。

本単元を含むChapter 2では、「自分の身の回りの人(家族や友だちなど)、自分の好きな人物(映画スター、ミュージシャン、スポーツ選手など)、自分が尊敬する人物などを、思いを込めて紹介できるようになること」が目標となっており、章末のMy Project 2では既習の表現を用いて実際に自分の大切な人を紹介する英文を書くプロジェクトゴールが設定されている。本単元は、人称代名詞の目的格を用いて他者について情報を付け加える英文を学ぶことで、プロジェクトゴールに結び付くように位置付けられている。

新出の言語材料としてはWhoやWhenを用いた疑問文や人称代名詞目的格が登場する。また、前の単元で3人称・単数・現在の文を学んでいるので、他者に関する情報を更に多く表現できる機会になる。1年生2学期の集大成として、既習事項を生かして他者の紹介をさせることで、まとまりのある英文を書いたり、話したりできる英語力を実感させ、今後も続く英語学習への意欲を喚起したい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は授業中の様々な活動、特にペア活動には、積極的に取り組むことができる。2学期初めに行ったアンケートでは、英語の授業が「好き」「まあまあ好き」と答えた生徒が79%と英語学習に意欲的な生徒が多い。しかし、「英語で書かれてある文章を読むこと」を「苦手」「少し苦手」と答えた生徒は50%と半数を占める。英語を読むことが「苦手」「少し苦手」と答えた主な理由として、「単語が分からない」や「読み進めるうちに分からなくなる」などが挙がった。その一方で、「英語で書かれている文章を読めるようになることは必要だと思いますか」という問いに対する回答から、全員が必要を感じていることが分かる。中学1年生の2学期初めの時点で、早くも「読むこと」に苦手意識をもち始めていることから、4技能のうちのリーディング活動に何らかの対策が必要である。

(3) 指導観

1年次2学期の最終ゴール（プロジェクト・ゴール）は『わたしの大切な人』というテーマのスピーチで、既習事項を用い、自分の身の回りの人、自分の好きな人物、自分が尊敬する人物などを、思いを込めて30～40語のまとまった英文で書いたり話したりすることである。PROGRAM 6～8は、ある場所、他者や動物などについての説明のモデル文となる。しっかりと本文を読み取らせ、本文を参考にして表現させることにより、プロジェクトゴールを達成させたい。また、3種類の発問(事実発問・推論発問・評価発問)を工夫して行うことで教科書の本文を「読むこと」を通して得た知識等について、自らの体験や考えなどに照らして、「話すこと」や「書くこと」に結び付けたいと考えている。

3 単元の目標

- (1) ペアワークやグループワークで間違いを恐れずに積極的に活動し、自分の考えを伝えようとする。
- (2) 本文の内容から、登場人物の考えや気持ちを推測し、英語で表現する。
- (3) 教科書の本文を聞いたり読んだりして、その内容を理解する。
- (4) 疑問詞と人称代名詞の運用についての知識を身に付ける。

4 評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
ペアワークやグループワーク、クラス全体の活動で積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	①人 称 代 名 詞 (him/her) を用いて、他者について述べることができる。 ②本文を根拠に登場人物の考えや気持ちを推測し、英語で表現することができる。	①登場人物に関する情報を正しく読み取ることができる。 ③登場人物の気持ちや立ち位置などを適切に読み取ることができる。	①疑問詞(who/when)の運用についての知識を身に付けている。 ②人 称 代 名 詞 (him/her) の運用についての知識を身に付けている。

5 単元計画（全7時間 本時5／7）

時間	○ねらい ・学習活動	読みのプロセス (発問構成)	評価規準	評価方法
1	○疑問詞 who の文の形・意味・用法を理解する。 ・ who を用いた文の構造を知る。 ・ ペアワークにより、基本文の定着を図る。		エ① ア	後日ペーパー テスト 行動観察
2	○人称代名詞目的格 him, her の用法を理解し、たずねたり、答えたりできるようになる。 ・ 人称代名詞目的格 him, her を用いた文の構造を知る。 ・ 人称代名詞目的格 him, her を用いて写真の人物について、ペアで対話する。		エ②	後日ペーパー テスト 行動観察
3	○疑問詞 when の文の形・意味・用法を理解する。 ・ when を用いた文の構造を知る。 ・ ペアでアクションカードを用いて対話をし、基本文の定着を図る。		エ① ↓	後日ペーパー テスト 行動観察
4	○北海道の地図と海洋生物の写真を見て、教師の問いに答える。 ・ Teacher Talk から得た情報と背景知識を関連付けて理解する。 ○セクション1の内容について理解する。 ・ 発問に基づき、ニックと笹森さんについての情報を整理する。 ・ 教科書や Teacher Talk から得た情報でガイド文を作る。	Pre-reading (背景知識の活性化のための発問) While-reading (事実発問1／3)	ウ①	ワークシート

5 (本時)	○セクション2の内容について理解する。 ・発問に基づき、ニックと笹森さんについての情報を整理する。 ・教科書や Teacher Talk から得た情報で、ガイド文を作る。	While-reading (事実発問 2 / 3) (推論発問 1 / 2)	ウ② イ②	ワークシート 行動観察
6	○セクション3の内容について理解する。 ・発問に基づき、イルカについての情報を整理する。 ・イルカについての英文を読み、イルカに関する追加情報を得て、笹森さんたちの活動目的を推測する。	While-reading (事実発問 3 / 3) (推論発問 2 / 2)	ウ① ウ②	ワークシート ワークシート
7	○「笹森さん なりきりコンテスト」を行う。 ・グループで協力して、練習をし、発表する。	Post-reading (評価発問)	ア イ①②	パフォーマンス テスト
後日	<ペーパーテスト> ◇言語についての知識を問う問題		エ①②	ペーパーテスト

6 検証の視点

- (1) 英語熟達度に課題が見られる生徒が、本文内容や今までの学習で得た知識や情報を生かして、ガイド文にオリジナルの文を付け加えることができたか。
- (2) 発問構成とそれに伴う手立てが生徒の思考を促すのに有効であったか。
- (3) Teacher Talk が生徒の Output として表出されたか。

7 本時の目標

教科書本文に書かれた情報を根拠として、登場人物の気持ちや立ち位置を推測する。

(外国語表現の能力)

8 展開（事実発問・推論発問）

過程	学習内容及び 学習活動	教師の指導・支援 ●活動が十分でない生徒への手立て	評価とその方法
導入	1 あいさつをする。 2 既習事項を用いてミニ会話をする。	1 元気よくあいさつし、学習の雰囲気を作る。 2 英語の音、リズムに慣れさせ、雰囲気を作る。	
展開	3 本文の音読をする。 4 本時の活動の内容を知る。	3 内容を理解しながら音読できているか確認しながら支援する。 4 本時の活動について説明をする。	
	めあて：笹森さん『なりきりガイド文Ⅱ』をつくろう。		
	5 教師の質問に答えることで、本文内容を想起する。 登場人物の気持ちを考える。 情景を思い浮かべる。	5 事実発問をし、本文の内容を正しく読み取らせる。 推論発問をし、登場人物の気持ちや立ち位置を適切に読み取らせる。 ●読み取れていない生徒のいるグループには、グループ内での話し合いを促す。	ウー② 登場人物の気持ちや立ち位置などを適切に読み取ることができる。（ワークシート/行動観察）
	6 得た情報からガイド文を作る。 7 効果的なガイドの仕方を考える。 発表の練習をする。	6 本文内容や今までの学習で得た知識や情報を生かすようアドバイスする。 ●どのようなガイド文が考えられるかヒントを提示する。 7 聞き手に効果的に伝えるには、どのような工夫ができるかをグループで話し合わせる。全体で共有化を図る。 協力して、目標にそった音読練習が進むようアドバイスをする。	イー② 本文を根拠に登場人物の考えや気持ちを推測し、英語で表現することができる。（ワークシート/行動観察）
まとめ	8 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。	8 活動全体を振り返らせ、次時の見通しをもたせる。	

9 本時の評価

評価規準	本文中の根拠を基に登場人物の気持ちや立ち位置を推測する。(外国語表現の能力)		
判断する めやす (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	本文の内容や本文中の語の用法, Teacher Talk を組み合わせた根拠を基に, 登場人物の気持ちや立ち位置を推測した記述をし, またはジェスチャーや声の調子を工夫して音読している。	本文中のキーワードを根拠として, 登場人物の気持ちや立ち位置を推測した記述をし, またはジェスチャーや声の調子を工夫して音読している。	(B)に達していない状況
→(B), (C)と判断した生徒への支援		→グループでの話し合いを促したり, ワークシート等を活用したりするように指示する。	→キーワードや単語の意味を教え, 登場人物の気持ちを推測するように指示する。
評価方法	ワークシートの記述及び行動観察		